



高齢者施策について

鈴木 健夫

問 生きがい創出や地域の活性化に繋がる高齢者の就業などの社会参画をどう考えるか。

答 就労支援は健康寿命や介護予防の観点からも重要だと認識している。今後、ハローワークや県と連携して、高齢者の就労支援の情報を広く周知できるように努める。

問 シルバー人材センターの仕事の受注内容は。

答 民間企業での軽作業、公民館の施設管理、駅前の駐輪場の管理、家庭等の除草作業や植木剪定、ふすまや障子網戸張りなどが多い。

問 働き盛りの世代が、がんになると厳しい現実があることの課題認識は。

要とする、がん患者に届くよう関係機関と協力して周知に努める。

問 がん患者を支えるネットワークの必要性は。

答 患者ごとのサポート体制については、広域的な連携を図りつつ、市民への情報提供を中心として、生活支援に協力していきたい。



夜間訓練中の日高市消防団と消防ポンプ車

消防団について

問 団員の準中型免許取得に係る公費負担をどう考えるか。

答 現在、補助金支出の根拠となる要綱の制定を準備中で今年度の公布、来年4月施行を目指す。

街路樹の管理について

問 腐朽・根上がりに対する対策は。

答 自治会と話し合いながら舗装等の補修をする。

問 維持管理計画や改善計画の策定の必要性は。

答 策定は将来的には必要だが、今は自治会や事業所の協力をお願いしながら維持管理を進める。



通学路の安全の徹底について

田中 まどか

問 県の第4期通学路整備計画において、日高市は53か所の改善が必要とされている。計画の進捗と実施見通しは。

答 既に33か所が完了し、今年度中に10か所着手する。今年度末に進捗率81%になる予定。

問 保護者や地域との情報共有のため、整備計画を学区ごとに公表すべきと思うが。

答 日高市分の整備計画及び進捗状況を市のホームページ等で公表していく。

問 子ども110番の家のプレート交換や再度の目的説明が必要ではないか。

答 現在千764件に協力いただいているが、再確認をお願いしていく。

問 不審者情報は、学校関係者だけではなく少なくなるとも区長、駐在所、子ども110番の家には配信すべきと思うが。

答 地域との連携は重要なるべく広げられるように検討する。

問 事件事故抑止のため、事業者、警察三者でドライブレコーダーの映像提供協定を結ぶ考えは。

答 今後正式に飯能警察署と協議していく。

野外保育園への支援について



野外保育の様子

問 園舎を持たず、野外で保育を行う団体が全国的に増えており、市内にも二団体ある。子どもたちの観点から、既存の保育所や幼稚園以外の選択をした家庭にも支援をすべきではないか。

答 国の基準を満たす施設と同様の支援はできないが、関係者から話を聞く機会を増やし情報発信やPRの方法を研究したい。

問 日高の自然環境をアピールし、子育て世代を呼び込む施策として支援

できないのか。

答 人口対策としての支援は考えてはいないが、関係者からの相談には可能な範囲で対応していく。

性的マイノリティへの支援について

問 学校での配慮は進んでいるのか。

答 全教員への周知を徹底する。また、悩みを持つ児童生徒へは発達段階に合わせて配慮していく。

問 市の窓口業務を委託している業者への周知は。

答 定例ミーティングにおいて理解を促していく。